

指定校番号	29018	学級活動	児童会	○	クラブ活動	学校行事	小学校用
-------	-------	------	-----	---	-------	------	------

## 平成 29 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立久保小学校	校長	村上 みどり	生徒指導主事	内田 哲雄
-----	-----------	----	--------	--------	-------

**取組事例名** 『児童会活動』**取組のねらい** 『キーワード 自他を思いやる心の育成』

全児童が相手意識を持って学校生活を送ることができるようになるために、協力して諸問題を解決しようとする共感的な人間関係を育成する。

**身に付させたい資質・能力**

- ・相手に思いやりをもてる力。
- ・自己の能力をのばす力。

**取組の具体的内容** 『キーワード 相手意識』**あいさつの取組**

## ○あいさつ運動

全児童が「美しいあいさつ」ができるようになることを目指し、児童会役員（水、金曜日）と職員が正門に立って、あいさつ運動を行う。



## ○あいさつ貯金魚週間

児童会役員と職員が、あいさつをしている児童を肯定的に評価し、あいさつのでよい児童に対して「あいさつグッドカード」を配る。各学年の一人当たりの獲得枚数で比べ、優勝した学年は全校の前で表彰する。

**学級委員会**

## ○代表委員会

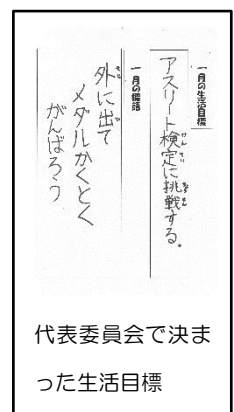
共感的な人間関係の育成を図るとともに、児童の主体性、自主性を高めることを目指し、児童会の自治活動や各学年のクラスの話合い活動の充実及び活性化を図るために代表委員会を開く。

（各学年で話し合ってくる内容）

- ・毎月の生活目標を守れたかの反省と次月の生活目標
- ・学校生活の中でよかったと思うことや困っていること
- ・児童会や他の学年にお願いしたいこと（緊急の場合は随時児童会に連絡する）

## ※事後の取組

- ・児童会だよりを全教職員と各クラスに配布し、教室に掲示しておく。
- ・よかったことや気になっていること、困っていることは、全校集会で話し共有することで、課題に対する意識化を図る。
- ・児童会から各クラスに連絡したり、啓発ポスターなどを掲示したりして問題解決をしていく。

**リーダーの育成**

## ○縦割り班活動

灯籠づくりの際、縦割り班の6年生が1年生に作り方を指導したり、全校集会



など縦割り班で活動するときなどは主になって動いたりする。

#### ○集会などの引率

毎週火曜日の集会に、6年生が他学年を並ばせ、体育館に引率したり、ランランタイムやジャンピングタイムなど他学年の前に立って指導したりする。

#### ありがとう週間（生徒指導部としての取組）

自他を思いやる心を育成するために、月に1回（1週間）、ありがとう週間を行っている。帰りの会で、児童が一日を振り返り、何人の友達に「ありがとう。」と言ってもらえたか確認する。

#### 取組の課題・創意工夫『キーワード 工夫』

- 代表委員会で決まった生活目標を意識して生活する児童が多くいたが、一過性の取組になってしまい、月が変わって生活目標が違うものになると、再びできなくなってしまう傾向があった。
- あいさつ貯金魚週間では、「あいさつグッドカード」をもらうことへのマンネリ化が進み、カードをもらうことに無関心になる児童がいた。
- ありがとう週間では、普段、児童が何気なく「ありがとう。」を言っていることに気付かず、振り返りが困難なときがあった。

※ いずれにしても、児童が意識して取り組めるような工夫を考え、実施する必要があった。

#### 取組の成果（効果）『キーワード 習慣化』

あいさつ貯金魚週間の目標達成度は94%だった。また、ありがとう週間の目標達成度は66.5%で大きく下回っていた。しかし、「ありがとう。」などの言葉は、日常生活の中でよく聞こえてきた。児童の振り返りでも『ありがとう。』と言ってもらったかどうか、覚えていない。言ってもらったとは思いません。」などの記入が見られた。

つまり、あいさつや「ありがとう。」の言葉が習慣化され、無意識のうちに言えるようになってきたのだと考える。

#### 今後の展開『キーワード 継続と発展』

- あいさつ貯金魚週間については、あいさつができるようになってきたが、地域に出ると「児童からあいさつができない。」との声もある。あいさつ運動を来年度も継続して行うとともに、主体性をもってあいさつができるような取組を考えて行く必要がある。
- ありがとう週間については、児童が振り返りやすいようなワークシートを作成したり、評価の基準・仕方などを考えたり必要がある。

#### 他校へのアドバイス『キーワード 周知・徹底・連携』

児童が有意義に活動できるように、職員に取組の内容を周知し、指導にブレがないように取組を徹底する。また、取組について職員間で連携し合うことで、取組に改善の必要性が生じた場合には、部会員で取組について練り直し、再度、職員に内容を周知する。この「周知・徹底・連携」のスパイラルが重要だと考える。